

**Citation:** Guo C, Shi Z, Revington P. Arthrocentesis and lavage for treating temporomandibular joint disorders. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 4. Art. No.: CD004973. DOI: 10.1002/14651858.CD004973.pub2

**CRG名:** Oral Health

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 3 August 2009

**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 4; New

**背景:** 顎関節症は重大な口腔健康問題で、患者の生活の質(QOL)を下げるものである。成人人口のおよそ20%から30%が顎関節の機能障害を経験しているであろうということが推定されている。この約10年間、顎関節症の治療には関節穿刺と洗浄が用いられてきたが、その治療の臨床的な効果はシステムティックレビューの形ではまとめられていなかった。

**目的:** 顎関節症の治療を行う、関節穿刺と洗浄の効果と副作用をコントロールインターベンションと比較して評価すること。

**検索戦略:** Cochrane Oral Health Group's Trials Register (2009年8月まで)、CENTRAL (*The Cochrane Library* 2009, Issue 3)、MEDLINE(1950年から2009年8月)、EMBASE (1980年から2009年8月)、OpenSIGLE (2009年8月まで)、CBMdisc (1981年から2007年(中国語))、ChineseMedical Libraryを検索した。口腔保健分野の中国語の専門雑誌はすべて手動で検索され、会議の議事録を参照した。言語による制約はなかった。

**選択基準:** 顎関節症の治療を行う関節穿刺と洗浄の治療効果を試験することを目的とした全てのランダム化比較試験(RCTs)(準ランダム化を含む)

**データ収集と分析:** 2人のレビュアーが別々にデータを抽出し、3人のレビュアーが別々にトライアルのバイアスのリスクを評価した。選択した論文の補足情報を得るため、筆頭著者にコンタクトをとった。

**主な結果:** バイアスの高いリスクは不明であったが、2つの試験を本レビューに含めた。

2つの試験は81人の顎関節症患者を対象とし、関節穿刺と関節鏡検査を比較した。

両方の介入間に痛みの点では統計学的有意差は認められなかった。

しかしながら、最大切歯開口量(MIO)では関節鏡検査の方が好ましいという統計学的有意差が認められた。(荷重平均差は-5.28で、95%信頼区間は-7.10から-3.16であった)

注射部位に、不快感や痛みといった軽度で一過性の副作用が両群で報告された。生活の質に対するデータは報告されていない。

**レビューアの結論:** 顎関節症患者治療に関節穿刺と洗浄を用いることを裏付けるか、異議を唱えるような一貫したエビデンスは不十分である。

有効性に関する確固たる結論が出される前に、より質の高い関節穿刺のランダム化比較試験が行われることが必要である。

(翻訳 渡辺千穂・監訳 豊島義博; JCOHR)

翻訳公開日: 2011年12月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。